

ことばを釋して、ホドロとはヒカルといふ詞也、ヒカル虫をホタルといふがごとしとみえし、卽是也、

〔日本書紀二神代ホタルヒノカヤクカミ〕螢火光神

〔釋日本紀八述義四〕以神之威光、驗螢火之光者也、

〔大和本草十四ホタル〕螢火、ホハ火ナリ、タルハ垂也、下體光ル、故名トス、大小二種アリ、山中ノ川ノ邊ニ

多シ、勢田宇治ニハ螢火多クシテ賣之、賣螢火事、和漢メヅラシ略○中詩經ニ熠燿タル宵行トイヘ

リ、宵行ハ卽螢也、

〔重修本草綱目啓蒙二化生八〕螢火、ホタル和名、ナツムシ古歌中略○

螢ハ夏初油菜糶ヲ刈ノ候、多ク出、大中小ノ三品アリ、皆水蟲ヨリ羽化シテ出、夏後卵ヲ生ジテ、復

水蟲トナル、腐草化シテ螢ト成ルニ非ズ、雄ナル者ハ光大ナリ、雌ナル者ハ光小ナリ、川ノ大小ヲ

問ハズ、年中水ノ斷ザル川筋ニ多シ、城州宇治川、和州宇陀川、江州西黒津、大日山田上八島ノ螢火

名産ナリ、ソノ形尋常ノ者ヨリ大ナリ、大ナル者ハ、ウシゴウタル越前ト云フ、

〔蟲譜圖說八生蟲〕集解、時珍說、螢有三種ト言モノハ、頭及甲黒ク、背赤キ小蟲ナリ、今オシナベテホ

タロト呼者ナリ、ムシホタロハ蝸ノ類ナリ、ウジホタロハ、土ニ生ル蠶ノ類ニシテ、物各異リ、

〔つれづれ〕草拾遺、腐草化して螢となるとはいへど、水にすむ尖螺イシラといふもの、田羸のやうにて、ほ

そながきが、化してほたるとなるよし、東國の人は申侍る、久我殿の池にはやくほたるおほかり

しが、家鳧をおほく飼けるのちは、ほたるまれくになりける、かのみらを、家鳧の喰ひ盡し侍

りけんかし、

〔空穂物語初秋〕螢おはします御前わたりに、みつよつつれてとびありく、これがひかりに、ものは

見えぬべかめりとおぼして、たちはしりて、みなとらへて、御そでにつゝみて、御らんするに、あま